

資料 品質管理【JIS規格準拠】はじめの一步

= 第4回 QC七つ道具-2 =

医療の世界ではその対象が人に対するサービスであり、かつ生命にかかわるサービスであるという特異性はありますが、決して特殊な業種ではなく、他の業界で成功を取めた品質管理手法がそのまま利用できないはずはありません。日本経済低迷の中で懸命に成長を続ける優等生企業は多々認められます。そのような企業がまさに生き残りをかけて取り組んでいる手法を、われわれも積極的に取り入れてこそ淘汰の時代の検査室生き残り策として活用できるのではないのでしょうか。

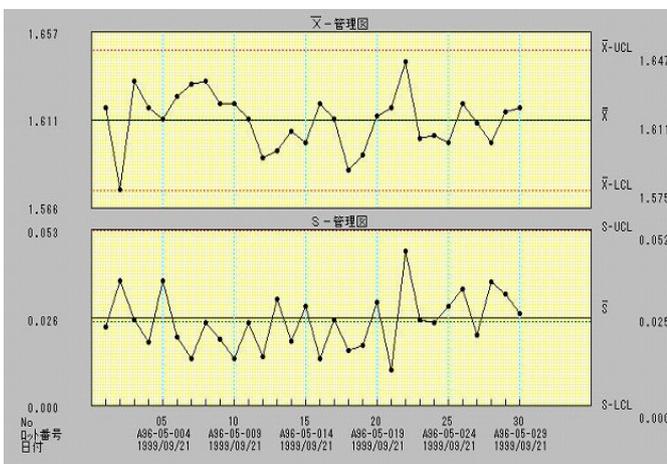
管理図とは？

JIS Z8101-2

「連続した観測値もしくは群のある統計量の値を、通常は時間順またはサンプル番号順に打点した、上側管理限界点線及び/又は、下側管理限界線をもつ図。打点した値の片方の管理限界方向への傾向の検出を補助するために、中心線が示される。」

管理図は、工程における偶然原因によるバラツキと異常原因によるバラツキを判断して、工程を管理するために考案されたものであり、管理線(1本の中心線(CL)とその上下に合理的に決められた管理限界線(UCL,LCL))からなっています。

工程の状態をあらわす特性値がプロットされたとき、全ての点が上下2本の管理限界線内にあり、点の並びかたに傾向がなければ、工程は"安定状態にある"とみなすことができます。一方、点が限界外にでた場合、また点の並び方に傾向があらわれた場合には、工程は"安定状態にない"といい、工程に異常状態が生じていると判断して、その原因を調べて処置をとる必要があります。管理図は、工程における偶然原因によるバラツキと異常原因によるバラツキを判断し、工程が安定な状態にあるかどうかを調べるため(解析用管理図)の有用な道具ですが、工程を安定な状態に保持するため(管理用管理図)としても広く使われています。



特性要因図とは？

JIS Z8101-2 1.18

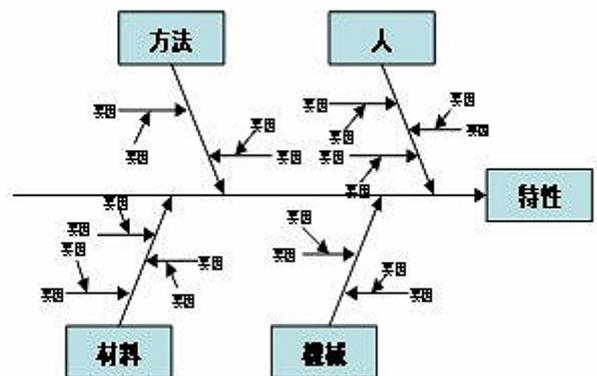
「特定の結果と原因系の関係を系統的に表した図。」

仕事の結果(特性)の良し悪しに影響する要因は数多く、しかも複雑にからみ合って存在します。特性要因図は、「問題とする特性と、それに影響を及ぼしていると思われる要因との関連を整理して、魚の骨のような図に体系的にまとめた図」です。

多くの関係者の経験や知識を集めて作られた特性要因図は、パレート図やグラフなどとともに品質管理を効果的に進めていくために不可欠な道具なのです。

- 特性要因図は、次のような場合などに用いられます。
- (1) 不良や欠点といった結果と、その原因の関係を図で整理する。
 - (2) 改善の手段を図で整理する。情報が早く読み取れ、深く理解できる。数字だけでは、見落としがちな問題もグラフ化すれば発見しやすくなります。

特性要因図の基本形



次ページへ...